

八尾歴史物語

十七巻

（一）文書や発掘調査から探る地震（二）

南海地震でも最大規模といわれるのが宝永4年（1707年）の

波による被害があつたことは忘れてはならないでしょう。

宝永地震で、死者は5千人余りと記録にありますが、実際は2万人以上と考えられています。

安政元年（1854年）11月には安政南海地震が起こりますが、その少し前の6月にも地震があ

り、当時、河内町大ヶ塚かみなに住んでいた河内屋が残した日記には、八尾の状況が次のように記されています。「十月四日昼八ツ時分（午後

は「六月十一日の二度の大地震によつて、潰れた家や半壊の家が多く、困窮した村では修復が行き届かず、住むこともできず、離散するほかありません。」とあり、領

2時ごろ）大地震（略）久宝寺の本堂（顕証寺）の御座間ござのまが崩れた。久宝寺の七百軒の在家のうち三百

主に借金を申し出ています。近年では、昭和21年（1946

余りが崩れ、無事であつた家は六十軒、その他は歪んでいる。八尾の御坊（大信寺）の台所が崩れ、火事で焼けた。慈願寺とカヤホリノ寺（恵光寺）はすべて崩れた。弓削ゆげで無事な家は十軒で、六十二軒が崩れ、その他歪んでいる。（略）」。

あるのは、永正7年（1510年）の河内地震で、常光寺の勸進帳に「去る永正七年八月上旬のとき、大地震により常光寺の堂社がごとく壊れた。」とあり、地震の

また、大阪については「大破言語に尽くし難し」とあり、津波で流された数百の船によつて日本橋より西の橋すべてが破壊され、堺筋より西で崩壊した家は幾千軒に分らないと書かれています。わ

たしたちが住んでいる大阪にも津から災害に備えることが大切です。ました。これを活かし、日ごろから